

次期 滋賀県農業・水産業基本計画(令和3年3月) 目指す2030年の姿の詳細 (案)

視点①：「経済」活動としての農業・水産業の競争力が高まっています					視点②：農村「社会」が次世代に引き継がれています		視点③：琵琶湖を中心とする「環境」が守られ、リスクに対応しています		
<p>●農業・水産業が魅力ある職業になっています。</p> <p>担い手^{※1}や漁業者は、先端技術の活用によるスマート農業・水産業の導入、施設園芸や果樹の栽培、経営の複合化や6次産業化、農地の集積・集約、集落営農組織の広域連携等により、労働負担の軽減、生産性の向上などを実現しています。</p> <p>担い手や漁業者が高度な経営を展開し、生産物や漁獲物の販売等による安定した収入を得ることで、後継者や雇われ者にとって良好な労働環境と安定した給与を確保できる条件が整い、女性や若者等が就きたい職業としての農業・水産業の魅力が高まり、円滑な経営継承や安定雇用につながっています。</p>	<p>●マーケットインを基本にプロダクトアウトの視点を加え、適地適作による水田のフル活用が実現しています。</p> <p>農業者^{※2}は、JA等からの需要に応じた品種別・用途別の米の作付提案に基づく契約栽培や、「オーガニック農業」、新品目の栽培など消費者の潜在需要にアプローチする一歩進んだ取組を行うとともに、麦・大豆等の本作物化、園芸作物等の高収益作物の導入など、地域特性に応じた更なる水田フル活用を実践しています。</p> <p>また、農業者の水田フル活用に資するため、農地の基盤整備や農業水利施設の整備・更新が進められており、高収益作物の生産基盤が整えられています。</p>	<p>●高品質な近江牛などの畜産物が生産されています。</p> <p>肉牛農家は、地域内一貫生産体制の確立により、子牛を県内で安定確保し、近江牛の生産頭数が増加しています。酪農家は、大消費地に近い生乳生産地域として、新鮮で良質な生乳を供給するとともに、チーズ等の加工品を開発・製造しています。</p> <p>養豚農家は、食品残さ等のエコフィードを利用して、特色ある豚肉を生産しています。</p> <p>また、耕畜連携により地域農業と結びつき、自給飼料の生産・利用が進んでいます。</p>	<p>●限られた水産資源を有効かつ持続的に活用し、琵琶湖漁業が継続しています。</p> <p>琵琶湖の漁業者は、琵琶湖の豊かさに支えられたアユやニゴロブナ、セタシジミなどに代表される限りある水産資源を有効かつ持続的に利用するために、主体的かつ積極的に水産資源を管理し、漁労活動と環境とを調和させながら漁業を営んでいます。</p> <p>また、琵琶湖の漁業者をはじめ、河川漁業者や養殖業者、水産加工業者などが一体となって、県内外の利用者や消費者にとって琵琶湖産魚介類を身近な琵琶湖の恵みとして活かす取り組みを進め、伝統に根ざした滋賀ならではの湖魚文化を継承しています。</p>	<p>●近江米、近江牛、近江の茶、湖魚などの「近江の幸」のブランド力が高まっています。</p> <p>農業者^{※2}は、全国に先駆け取り組んできた「環境こだわり農業」を定着させています。さらに「オーガニック農業」や「魚のゆりかご水田」の栽培が広がることで、安全・安心な農産物の生産に取り組んでいます。また、漁業者は「琵琶湖八珍」などの魚介類を安定的に出荷し、消費者が「近江の幸」を食べられる「幸せ」を実感しています。</p> <p>食味ランキングや地理的表示制度(GI)登録など第三者による認証に加え、日本農業遺産「森・里・湖(うみ)に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」や「おいしがうれしが キャンペーン」など、本県ならではの取組等をPRすることにより、近江米、近江牛、近江の茶、湖魚などの「近江の幸」のブランド力が向上し、輸出などの新たな市場・販路が拡大しています。</p>	<p>●農業水利施設が適正な保全管理により維持・更新され、持続的な地域農業の維持・発展に貢献しています。</p> <p>5Gなどの通信環境が農村でも整い、ICT技術の活用による農業水利施設の管理省力化が進んでいます。水路やため池などの農業水利施設の計画的な保全更新対策が進められ、施設が健全な状態に保たれています。このことにより、農業用水の安定確保が図られるとともに、地域の防災・減災に貢献し、強くなやかな農村が形成されています。</p> <p>管理が省力化され、健全で災害に強い農業水利施設は、持続的な地域農業の維持・発展に貢献しています。</p>	<p>●集落の力で農山漁村の持つ多面的価値が、持続可能な形で次世代に引き継がれています。</p> <p>滋賀県の集落営農が培ってきた特徴である「集落の農地は集落で守る」の精神のもと、「話し合い」に基づいた取組が実践され、農村集落の人の担い手^{※1}への農地の集積・集約への協力や、共同管理への積極的な参加により担い手の農業経営が支えられています。</p> <p>過疎化や高齢化、野生獣による被害等により農業農村の維持が困難な集落では、「将来にわたり集落を守り元気を取り戻したい」という機運が高まり、スマート農業を活用した省力化技術の導入や水田基幹作業の外部委託、多様な主体の参画や集落間連携・広域化による農地・水路等地域資源の保全に取り組み、農業農村の持続的な維持を通しての多面的機能が発揮されています。</p> <p>特に中山間地域では、地域の魅力に焦点をあてた振興策のゾーニングを集落自らがを行い、多様な主体との協働・連携により、地域資源の利活用の最大化が図られ、生き生きと健康な農村が築かれています。</p>	<p>●「環境こだわり農業」の更なる深化等により、農業が琵琶湖を取り巻く環境の保全に貢献しています。</p> <p>農業者^{※2}は、全国に先駆け取り組んできた「環境こだわり農業」を定着させています。さらに「オーガニック農業」や「魚のゆりかご水田」の栽培が広がっています。</p> <p>また、河川周辺での農業濁水対策に取り組むとともに、農業系プラスチックごみの削減に努めています。</p> <p>これらの取組により、農業が琵琶湖とそれを取り巻く環境の保全再生に貢献しています。</p>	<p>●琵琶湖とそれを取り巻く環境の保全再生が進み、健全な循環のもと水産資源が回復しています。</p> <p>琵琶湖の魚介類のにぎわいを支えるため、種苗放流や外来魚の徹底した駆除、魚介類の産卵繁殖や生息の場所となるヨシ帯や砂地の造成など、琵琶湖とそれを取り巻く環境の保全再生の取組が進み、栄養塩から始まる健全な物質循環に基づく豊かな生態系のもとで、水産資源が回復しています。</p> <p>また、「やまの健康」が進み、琵琶湖の水源を涵養する森林が保全され、湖魚の繁殖場所である河川の水量が安定するなどの森林の多面的機能が持続的に発揮され、琵琶湖の水産資源の回復につながっています。</p>	<p>●気候変動や自然災害発生等へのリスク対応が実現されています。</p> <p>農業者^{※2}は、台風や異常高温などの気候変動に対し、環境こだわり農業や耕畜連携等の緩和策と、高温に適應する品種の導入や耐候性農業用パイプハウスの建設等の適応策を実践しています。</p> <p>あわせて、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病対策や、気候変動等による突発的な農作物病虫害の発生等への対策を継続して講じることにより、安心して農業を営んでいます。</p> <p>また、自然災害に備えて農業用ため池、排水路などを整備するとともに、ため池ハザードマップ等により災害リスクを明らかにすることで農村地域における地震・豪雨等の自然災害に対する地域の安全・安心を守っています。</p>
<p>※1「担い手」：認定農業者、認定新規就農者、将来法人化して認定農業者となることを見込まれる集落営農組織</p>					<p>※2「農業者」：すべての農家、販売農家。</p>				

<ベース> 滋賀県農業・水産業と関わる「人」のすそ野が拡大しています

今まで農業・水産業の生産現場に関心を持たなかった人が、農業・漁業体験、都市農村交流、棚田ボランティア等の体験活動への参加等をきっかけに、滋賀県の農業・水産業に関心を持つようになっていきます。

滋賀県の農業・水産業の生産現場に関心を持つようになった人は、居住地から離れた農村集落や近隣の農業者のもとへ自主的かつ定期的に訪れて援農活動をするなど、現在の居住地に留まりながら滋賀県の農業・水産業と関わりを持つようになります。

滋賀県の農業・水産業の生産現場と関わりを持つようになった人は、生産者の顔だけでなく生産現場までを知ることで、農業・水産業の琵琶湖を中心とした環境保全に向けた取組を理解し、「近江の幸」のブランド力をより評価し、県外産や輸入の農畜水産物と比較して「近江の幸」を積極的に購入・消費するようになり、健康的な日常生活を享受するようになります。

このような社会変革^{※3}により、滋賀県農業・水産業と関わる人のすそ野が拡大し、幅広い世代から新規就業希望者や、農山漁村に移住し集落活動への参加を希望する人など、滋賀県農業・水産業の生産現場に更に深く関わる人の候補が現れ、「人の不足」を補うようになります。

あわせて、農作業の持つ多面的機能が更に評価される社会となり、農業と福祉分野が連携した「誰もがいきいきと地域で暮らし、ともに働き、活動できる共生社会」や、都市部においては「農業者と都市住民が共存する環境共生型の社会」が実現されています。

※3「社会変革」：ソーシャルイノベーション。よりよい社会のために新しい仕組みを生み出し、変化を引き起こすこと